



須磨寺 三重塔

青葉の笛だより

第 18 号

平成 28 年 10 月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

「偉いお坊さんが亡くなることを「遷化」と言います。それは、人々に仏の教えを伝え導く教化という役目がこの世で終わり、別の世界に意図して生まれかわって、その世界でまた教化の役割を担うため、この世から別の世界に「教化を遷す」のだという意味が込められています。」

先日いただいた冊子の中に、偉いお坊さんが、実際にどの世界に生まれかわるのかについて、唐の時代の禅宗のお坊さん、趙州從諗という人の面白い話が紹介されていました。

それは、洒落だった趙州和尚と、崔という政府の長官とのある日の会話で、崔長官「人を導く和尚様でも、やはり地獄に入ったりするのでしょいか?」。趙州和尚「わしは真つ先に入る」。崔長官「人々を導く和尚様であるなら、どうして地獄に行ったりしましうか」。趙州和尚「地獄に行かなければ、お前に会えないではないか」。

趙州和尚は、地獄について他人事のように語る長官に対し、「自分は地獄とは無縁だと思っているのか。他人はともかく、自分自身の行いはどうなんだ?」と、たしなめ反省させたというお話でした。

また、このような話もあります。ある青年が電車に乗ってきた老人男性のズボンの前が開いていたので、教えてあげました。老人は喜び、礼を言って向かいの席に座りましたが、今度は老人がその青年を呼びます。青年は「もうお礼はいいのに」と思いましたが、老人が真剣な顔をして呼ぶので行きました。すると老人は「さっきはありがとう。あんたのも開いてるよ」と、教えました。

私たちの目は向こう向きについているので、人の事に目をむけがちで、自分の事が見えなくなっていることが多いのです。仏様は何故か眠たそうな目をしておられますが、あれは「半眼」と言って、私たちを見守って下さると同時に、瞼を半分閉じて常に自分も見つめておられるお姿なのです。

忙しいからこそ仏様を見習い、常に自分を見つめる気持ちと時間を持ちたいものです。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三



須磨寺 子ども寺子屋修行

須磨寺では毎年七月三十日に、子どもたちが須磨寺で一日修行体験をする寺子屋修行を行っています。今年は四十五名の子どもたちが明るく楽しい雰囲気の中、修行することができました。普段学校では学ぶことのできない、礼儀作法や読経・座禅などを通じて様々なことを感じたことと思います。今回参加して下さった井上愛咲さんと東ほのかさんの感想文を掲載させていただきます。



いい経験になった寺子屋修行

西落合小 五年 東 ほのか

子ども寺子屋修行に行く前はすごく緊張しました。二回目だけど一回目がすごく先生が恐かったので緊張しました。だけと行ってみたら全然恐くなかったので緊張がときました。

わたしが一番楽しかったことは、正覚院道場でやった清掃をした事です。雑巾がけをしてだるまさんが転んだや雑巾がけ競争をしたりしました。だるまさんが転んだでは、一回もつこかなかったのが良かったです。雑巾がけ競争は、男女に分かれてやりました。わたしは一位にはなれなかったけど五位くらいになれたので良かったです。心もきれいになった気がしました。

次に一番頑張ったことは、座禅と写経です。座禅では、あぐらをして三十分ぐらいその姿勢を維持し続けるということをしました。足がしびれたけど心を清らかにするためにだと思ひ頑張りました。写経は、「南無大師遍照金剛」と「咒」を書きました。二つとも習っていない漢字があったので難しかったです。でも自分を落ち着かせるためにしようと思ひ頑張りました。

子ども寺子屋修行をしていい経験だと思いました。心を清らかにしようと思ひて自分について考えられたので良かったです。

子ども寺子屋修行に行つての感想

西落合小 五年 井上 愛咲

わたしが寺子屋で、楽しかったことが二つあります。

一つ目は、念珠作りです。色は十色くらい有って、黄色、オレンジ色、うすピンクで作ってきれいにできて、とても気に入りました。

二つ目は、正覚院道場での清掃です。男女に分かれてしました。雑巾がけを三種類して、一番楽しかったのは、だるまさんが転んだをしながら雑巾がけをした事です。

頑張ったことも二つあります。一つ目は、写経です。「南無大師遍照金剛」と「咒」と言う字を書きました。初めて書いた字なので難しかったです。

二つ目は、座禅です。座禅では、あぐらをしました。息をはく時、吸う時結構しんどかったです。途中中ぐらうしたけど去年よりは楽でした。

寺子屋では、いろいろな事を学びました。貴主様が言われたように、きれいな心で過ごそうと思います。また来年も行きたいです。

須磨の火祭り



来る十一月二十三日（祝：水曜日）午前十一時より、須磨寺秋季大祭「須磨の火祭り」柴燈大護摩供、火生三昧火渡り修行」を厳修致します。柴燈護摩とは、屋外で焚く大護摩のことでも、もともとは山伏が山の中で行っていた修験道の修行であり、不動明王の智慧の火によって皆様の諸願成就を祈ります。護摩壇が点火されると、境内は煙で包み込まれます。この煙にあたれば、無病息災のご利益を得られると伝えられています。

法要の最後には、火渡り修行が行われます。火渡りは火の上を歩く荒行です。浄火によって煩惱を焼き尽くし、古い身体と別れ新たに生まれ変わるといふ意味があります。この一年を無事に終えた事を仏様に感謝し、火渡りによって身を清め新しい年をお迎え下さい。

記

- 一、日 時 十一月二十三日（水曜日）午前十一時開白
- 一、会 場 須磨寺境内 ※荒天時は、護摩堂にて
- 一、ご 祈 禱 特別祈禱札 一万円・三万円・五万円
添護摩木 千円
- 一、火 渡 り 厄年特別火渡り 五千元
一般火渡り 二千元（先着百五十名）
- ※火渡り申込の方には当日お礼、行者手ぬぐいをお渡しします。
※火渡り神事は荒行です。多少のやけどもありです。
申込書の注意をよくお読みのうえお申し込みください。
- 一、お申し込み 須磨寺派各寺院にお申し込みください。

特に来年厄年を迎える方は、厄難消除のために、火渡りをされることをおすすめします。

平成二十九年 厄年表

平成 十一年生（女性）	厄年	平成 五 年生（男性）	小厄
昭和六十一年生（女性）	前厄	昭和五十二年生（男性）	前厄
昭和六十一年生（女性）	本厄	昭和五十一年生（男性）	本厄
昭和五十九年生（女性）	後厄	昭和五十年生（男性）	後厄
昭和五十六年生（女性）	厄年	昭和三十三年生（男性）	厄年
昭和三十二年生（女性）	厄年		

須磨寺 句碑めぐり

須磨寺の境内には、昔から有名無名の句碑や歌碑が多く、その数は二十数基にも及びます。今回より一つずつ句碑をご紹介します。

こんなよい月をひとりで見えて寝る

尾崎放哉

この尾崎放哉の句碑は、大師堂の前にあります敦盛御首洗いの池のほとりに建っています。大正時代になりますが、尾崎放哉は一時期、須磨寺の大師堂で堂守として暮らしていました。放哉は自由律の俳人として名を知られた人でした。自由律とは、普通の俳句と違って字数や季題にこだわらず、できるだけ短い字数で自分の気持ちを歌うという立場の俳句のことです。例えば放哉の代表作で

咳をしてもひとり



という句がありますが、九文字しかありません。このように風がわりな俳句の先生であつたのですが、それ以上に彼は風がわりな人生を歩いた人として有名でした。当時としてはエリート中のエリートともいべき東京帝国大学法学部を卒業し、ほどなくある保険会社の支配人となりますが、その勤めに急に嫌気がさし、会社もやめ、妻ともわかれ、一切のものを放下して自ら無一の生活に飛び込んでいきました。それから彼は京都の一灯園に入って無一の生活を始めますが、ほどなくそこもやめ、それから転々とあちこちの寺の寺男をしながら、最後は小豆島の南郷庵で一人寂しく亡くなりました。死ぬ前の九か月ほどを彼は須磨寺で寺男をしながら大師堂に住み込んでいたのですが、須磨寺時代からのちの俳句は特に心境の澄み切った傑作が多いといわれています。

ご紹介しました句は須磨寺時代の最高傑作とも言われています。句碑の字は彼の俳句の先生であつた萩原井泉水の手です。大正時代の須磨寺の夜は、今以上にそれは静かな夜であつたに違いありません。その静けさの中で、放哉は一人ぼっちで大師堂に住んでいます。当時はまだ電灯もありませんでした。そんな暗く静かなお堂に一人寂しく座っていると、やがて南のかたな須磨の浦に丸く大きな月が出てきます。その頃には、須磨寺の庭から須磨の浦の海が見えていました。さぞ素晴らしい眺めであつたにちがひありません。ほかに誰もいないところで見える月は、まるで自分だけのために輝いているかのようでした。それを放哉は「こんなよい月を」というのです。今まで月のよさというものにそれほど心打たれることはなかったのでしょうか。孤独に身をおいて初めて月のよさがしみじみと有難かつたのでしょう。私たちは、時には孤独に身を置いてみるのがよいのかもしれません。放哉のように、今まで何気なく見過ごしていた事柄を、有難く感じられることがあるのではないかと思います。当たり前のことに感謝する心を忘れないでいたいものです。

招 福 仏像彫刻会



あなたご自身の手で
世界にただ一体だけの
仏さまを彫ってみませんか

須磨寺大仏師山高龍雲先生ご指導のもとお身丈約 11 センチのお地藏様を彫る仏像彫刻会を開催します。初めての方も大歓迎です。最後に開眼（お精念入れ）のお勤めを行い、合わせて皆様の招福祈願を行います。心を込めて彫ったお地藏様はきっとあなたを見守り救ってください。木の香りに包まれながら、心静かな時間をお過ごしください。

12月12日(月) 場所： 須磨寺
12時30分～16時 書院客殿

参加費：5,000 円、完全予約制
お申し込み・お問い合わせ先： ☎ 078-731-0416